



第22号

町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～
【共生社会の実現に向けて・・・】

福島町の友好町村は、「福島」を町名としていた縁で、長野県木曾町(旧木曾福島町)と長崎県松浦市(旧福島町)の二つがあります。また、最近の交流は少ないですが、青函トンネル工事基地のつながりで外ヶ浜町(旧三厩村)などがあります。松浦市とは、ここ数年途絶えておりました職員の研修交流を今年から復活することになり、当町から産業課の岩坪さんが松浦市へ6カ月間派遣されております。また、松浦市からは産業課へ永田さんが派遣で来ております。

そのようなこともあり、先般、長崎県松浦市の友広市長を表敬訪問し、今後の交流の在り方などを含めて意見交換してまいりました。

長崎県の旧福島町とは、長い交流の歴史があり、職員の交流はもとより、駅伝や横綱太鼓などの交流が盛んに行われ、

交流が縁で福島町から長崎県に嫁いだ方がいらっしやいます。

その方は、旧姓熊谷さんで、せっかくの機会でしたので職場へお邪魔させていただきましたが、元気で頑張っております。

六月三十日(金)に、函館市民会館において民生委員制度創設百周年記念渡島管内地方研究会が開催され、来賓として参加をさせていただきました。

民生委員制度は、大正六年に岡山県で誕生した「濟世顧問(さいせいこもん)制度」に始まり、今年で百年を迎えることとなり、これまで地域福祉にご尽力いただいた先人たちに、心より感謝の意を表したいと思えます。

当日は、渡島管内から大変多くの民生委員・児童委員の方々が参加され、地元民生委員等の方々も多数参加していただきました。

なお、式典の後、フローレンス・ナイチンゲール記章を受賞され、現在、NPO法人このゆびとーまれ理事長の惣万佳代子氏の講演を聞くことができました。

仕事柄、様々な方の講演を拝聴する機会をいただいておりますが、ここ数年では久々に心に響く感動的な話を聞くことができました。富山弁でユーモアを交えた話に引き込まれた感じですよ。

惣万さんは、富山県赤十字病院勤務を経て、友人三人と富山県初のNPO法人を立ち上げて認知症や障害者などの方々が共生して暮らせることを目標に活動しております。「あつたか地域の大家族」―富山型デイサービス―の二十三年―と題して、看護婦の経験とケアマネの実践に裏打ちされた会話に、一つひとつ重みがあり、かつ、説得力がありました。

印象に残った言葉に、「私たちは一人の命を助けることはできるが、百人の命を助けることはできない、百人の命を助けることができるのは行政であり、行政の役目である。」と、行政を預かる者として本当に胸に刻みたい一語です。

また、惣万さんの好きな言葉が、私も好きな言葉で町長に就任した際の所信表明で引用させていただきました。第三十五代アメリカ大統領のジョン・F・ケネディ氏の「国があなたのために何をしてくれるかを問うのではなく、あなたが、国のために何をできるかを問うて欲しい。」という言葉です。講演を聞いて、改めて、すべての町民の方々が、生まれ育った、この住み慣れた福島町で生涯を終えることができるために、何を成すべきか自身に問うて考えたいと感じたところでもあります。